

コラム 国土交通大学校の緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）研修に講師派遣

平成 26 年 8 月の広島豪雨土砂災害では、70 名を越える住民が一瞬のうちに土石流に飲み込まれた。国土交通省緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）は、更なる土石流や、がけ崩れ等の発生が危惧される悪条件のなか、斜面・溪流の点検と応急対策の検討のため緊急調査を実施した。広島豪雨土砂災害に限らず、そのような悪条件下において、TEC-FORCE が安全かつ正確な緊急調査を行うには、隊員各自の知識・技術の向上が必要不可欠となる。そのため、国土交通大学校では「緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）研修」が開講されており、災害対応においてリーダーシップの発揮を求められる地方整備局の課長補佐、事務所課長クラスを対象とし、20 にのぼる講義と演習が開講されている。土木研究所は、平成 26 年度の研修において、全国各地の土砂災害、道路災害、地震災害の、実務・技術指導にあたる上席研究員等 3 名を講師として派遣している。

土木研究所の職員の講義は、数多くの災害現場で培ってきた技術力と豊富な知識・経験をもとに、実際の現場での様々な課題と留意点を理解し、実際的な経験に基づく知見を習得できるように進めており、受講生からは、講義に対して次のような反応が得られた。

- ・実際に現場で技術指導にあたった方から、現地での困ったことや考えたことなどを聴かせて頂き、派遣された時、どこに着目すべきか参考になった。
- ・地すべりにも様々な特徴があり、それを把握する必要があることから一律の対策を取ることは困難であることが理解できた。
- ・自らの体験による、実際の現場、調査等対応、PLS対応まで事例を交えた説明で分かり易かった。
- ・地すべりに関する現場での視点など、通常業務においても非常に参考となるものであった。

TEC-FORCE は、国、都道府県の災害対応にとって重要な役割を担っており、土木研究所は、講師派遣によりその総合的な技術力向上に大きく貢献している。



写真-1 国土交通大学校 緊急災害対策派遣隊
(TEC-FORCE) 研修の様子（平成 27 年 2 月）



写真-2 高知県大豊町で発生した地すべり災害での
国土交通省への支援（平成 26 年 8 月）